令和6年度 第1回茅ヶ崎市みどり審議会 会議概要

案件	1. 報告事項 (1) 「茅ヶ崎市みどりの基本計画 生物多様性ちがさき戦略」における進捗状況報告（令和5年度実施事業）について (2) 森林環境譲与税の使用実績等について 2. その他
日時	令和6年7月12日（金）午後3時30分～午後4時45分
場所	茅ヶ崎市役所 分庁舎5階 特別会議室
出席者氏名	委員 一ノ瀬会長、小谷委員、荒井委員、岡田委員、久保田委員、萩原委員 欠席委員 岡本委員 事務局 都市部 深瀬部長 景観みどり課 吉野課長、戸井田課長補佐、白濱副主査、北澤主任、谷島主任
会議資料	報告資料1. 「茅ヶ崎市みどりの基本計画 生物多様性ちがさき戦略」における進捗状況報告案（令和5年度実施事業）について 報告資料2. 森林環境譲与税の使用実績等について
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	
傍聴者数	0人

○事務局（課長）

委員の皆様こんにちは。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。
 景観みどり課長の吉野です。

定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第1回茅ヶ崎市みどり審議会を始めます。

本日の審議会については、茅ヶ崎市附属機関及び懇談会等の設置及び会議の公開等運営に関する要綱に基づき実施させていただきます。

また、本日はつきましてはオンライン形式による開催となります。

それでは開催にあたり4点ほど確認をさせていただきます。まず初めに、WEB会議となりますので通信状況の確認をさせていただきます。こちらの映像及び音声がかちんと受信できるかを含め、お名前をお呼びしますので、応答いただけますようお願いいたします。

(通信状況の確認)

ありがとうございます。以上で通信状況の確認が終了いたしました。

次に2点目、傍聴者の確認です。本日、本審議会の傍聴者は現時点でおりませんので、その旨報告いたします。

次に3点目、会議充足数の確認です。本日の会議につきましては、委員7名のうち6名の委員に出席していただいております。茅ヶ崎市みどり審議会規則第5条第2項に規定さ

れる過半数の出席を充足しているため、本審議会が成立していることをご報告申し上げます。

次に4点目、会議の公開非公開についてです。本会議の内容は公開となり、会議の経過を明らかにするため、会議録を作成し、会議資料とともに、市役所の市政情報コーナー及び市のホームページで公表することとなっておりますので、ご承知おきください。

本日の資料につきましては「茅ヶ崎市みどりの基本計画 生物多様性ちがさき戦略における進捗状況報告書（案）（令和5年度実施事業）と森林環境譲与税の使用実績についての2点となります。事前に郵送しておりますので、この場での資料の確認は割愛させていただきます。よろしくお願いいたします。

次に、令和6年度4月の人事異動により、都市部長及び景観みどり課長が代わっております。

まず、都市部長の深瀬です。

続いて、私、景観みどり課長の吉野です。よろしくお願いいたします。

それでは、都市部長よりご挨拶を申し上げます。

○都市部長

本日は、令和6年度第1回茅ヶ崎市みどり審議会にご出席いただきありがとうございます。4月より部長になりました深瀬でございます。よろしくお願いいたします。

みどりの保全、生物多様性の保全については、世界的な社会情勢を受け、国においてもネイチャーポジティブ・自然回帰に向けた様々な施策を打ち出しています。本市においても、今あるみどりの保全、生物多様性の保全に向け、様々な分野との連携等が重要であると感じております。

本日は令和5年度の実績を振り返り、様々な意見をいただき、次の取組に反映させていきたいと考えておりますので忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（課長）

それでは、これより議題に移りたいと思います。議事の進行につきましては、審議会規則に基づきまして、一ノ瀬会長にお願いいたします。一ノ瀬会長、よろしくお願いいたします。

○一ノ瀬会長

それでは、皆さん改めてこんにちは。本日もよろしくお願いいたします。本日は報告事項が2件となっております。まずは、報告事項1「茅ヶ崎市みどりの基本計画 生物多様性ちがさき戦略」の進捗状況報告書（案）（令和5年度実施事業）となりますが、基本方針ごとと説明してもらい、質疑応答を設ける流れで進めていきたいと思っております。

それでは、報告事項1について、事務局よりご報告・ご説明をお願いいたします。

○事務局

それでは、事務局より報告事項1「茅ヶ崎市みどりの基本計画 生物多様性ちがさき戦略」における進捗状況報告書（案）（令和5年度実施事業）について、報告資料1に基づいてご報告いたします。

まず2ページの上段のみどりの基本計画における適切な進行管理をご覧ください。この進捗状況報告は、みどりの基本計画の「第6章 計画の推進に向けて」に位置付けた「計画の適正な進行管理」に基づき、計画の着実な推進を図るため、各課における令和5年度の実績を施策の進捗状況として、審議会に報告するものです。

続いて4ページをご覧ください。この報告書の構成につきましては、みどりの基本計画の「施策の体系」に基づき、3つの基本方針ごと、それぞれに位置づく施策に対する各課の実績を取りまとめています。

また、この審議会において評価時期の変更とともに、各施策における活動内容等をできるだけ客観的な数値で表し、分かりやすい報告・評価とするため、今回から新しい様式にしています。

各施策における活動内容やその実績などの詳細については、ご確認いただいているもの

として、事務局からは主に令和5年度の取組に基づく各基本方針の自己評価についてご説明させていただきます。

それでは10ページをお開きください。基本方針1「人々が身近にふれあうみどりの充実」につきましては、主に公園や市街地に残された樹林や民有地、街路樹など様々なみどりの保全・再生・創出に取組、みどりとのふれあいの提供や、みどりの多様な機能を活用し、豊かな生活を送ることができるまちづくりを推進することを目指した取組となります。

各施策の取組と効果の総括として、市内における緑地の総量については、社会増による人口増加傾向が続く、開発圧力が高い状況が続いている中、令和6年4月1日時点における市街化区域内の緑地の面積は、177.39ヘクタールで、前年度に比べ、約4.75ヘクタールの減少となりました。保存樹林制度や生産緑地制度など民有地におけるみどりの保全に継続的に取り組んでいるものの、指定から30年を迎えた生産緑地の指定解除が多かったことが主な要因と考えております。

また、公園の整備については、昨年度に比べ都市公園が5か所、0.62ヘクタール増加しておりますが、主に浜見平団地の建替に伴う公園整備により増加したものとなっております。

その他、宅地分譲等の開発行為等に伴う公園緑地の整備については、比較的小規模な公園が多くなり、多くの世代が集うレクリエーション空間として十分な確保に繋がっていない可能性も有ります。このことから、公園としての緑地が不足している地域への整備も含め、みどりによるうるおいのある空間整備に取り組むものとしています。

また、都市公園や道路の街路樹、水路など公共施設における緑地については、それぞれの施設本来の機能維持・発揮に向け、安全面等を考慮した適切な維持管理に取り組むことで、みどりの保全に繋げております。

また、市内小中学校32校に対し、水辺のビオトープに関する設置状況調査を実施したところ、小学校2校から自然環境学習や水辺環境の保全などについて、学習活動に繋がる相談事例がありました。これは、児童・生徒に対するみどりの保全や生物多様性の保全に関する環境教育や周知啓発に繋がった事例と考えます。

基本方針1における課題と今後の方向性につきましては、人口の増加傾向が続く、民有地を中心にみどりが減少している中、地権者のご理解・ご協力のもと、引き続き保存樹林や借地公園、生産緑地などの民有地におけるみどりの保全が課題であると捉えています。

なかでも、新型コロナウイルス感染症のまん延対策等により、優先的に実施すべき事業の実施の影響等により、休止している保存樹林の新規指定の再開とあわせ、市民緑地制度や特定生産緑地制度の活用など、地権者等の協力を得ながら引き続きみどりの保全・再生・創出に取り組むものです。

公共施設におけるみどりについては、高度成長期に建設された施設が多くなっており、樹木の高木化や枯損木の発生などが生じているため、みどりの保全とともに生物多様性に配慮した維持管理手法の検討など、今後の施設管理において検討すべき課題と考えます。

また、施策9や次の基本方針2に紐づく施策13の重点事業に位置づけた特別緑地保全地区の指定推進については、令和3年2月に指定候補地の多くが土砂災害特別警戒区域等に指定され、それに伴う当該区域内の安全性の確保や土地所有権に基づく法的責任の課題が生じたため、指定に向けた活動を休止している状態です。

基本方針1の自己評価については、簡単ではありますが以上となります。

○一ノ瀬会長

はい。ありがとうございます。基本方針1の説明が終わりましたが、基本方針1の自己評価について、質問ご意見等がありますか。岡田委員お願いします。

○岡田委員

ありがとうございました。基本方針1の自己評価の前の話ですが、前回、評価時期の変更についての話がありましたが、2ページが一番下の図がやっぱり分かりにくいというのが実感です。例えば一番上の「みどりの基本計画 計画期間」というのがこれは「みどりの基本計画実施期間」ではないのかなというのと、あと最後の一番右側に「新計画」とあ

りますが、これは「新みどりの基本計画の実施時期」などに変えた方が良いと思います。
このあたりの記載にもう少し工夫がいるのではないかと思ったため、指摘させていただきました。

○一ノ瀬会長

はい、事務局からいかがでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。2ページのこちらの計画期間等を表した図につきましては、前回までに委員の皆様からご意見等をいただいていたところだと思います。

記載されている表記等が少し分かりづらいのではないかといったご意見だと思いますので、こちらについては事務局の方で文言を修正しようと思います。その他の委員の皆様につきましては、そういった形でよろしいでしょうか。

(委員から意見なし。)

○岡田委員

もう1点よろしいでしょうか。文章について2ページの(2)「評価の実施時期の変更について」の5行目「また、当初のスケジュールでは・・・」の部分が文章的におかしいような気がしました。「難しいという齟齬がありました。」のようにすべきかと思います。

2029年度から次期の計画が開始予定だと思いますが、それについて文章中で明記しておかないと分かりづらいかと思いました。

○事務局

ありがとうございます。先ほどご指摘いただいたものも含めまして、事務局の方で、修正をさせていただきます。よろしくお願いたします。

○一ノ瀬会長

他にいかがでしょうか。

小谷委員お願いします。

○小谷委員

確認ですが、基本方針1の27ページの生産緑地のところについて、表中の生産緑地の指定に記載されている数値は、その下の特定生産緑地の指定の数字を含んだ数字ということでよろしいでしょうか。

○事務局

通常の実産緑地制度と特定生産緑地制度は別個のものとなりますが、数値につきましては、委員おっしゃるとおり含んでおります。

○小谷委員

分かりました。数字が減った理由は、主に相続の発生と察しますが、理由について教えていただきたいです。また、解除後の生産緑地については、宅地化が多いのでしょうか。

○事務局

生産緑地が減っているといったところにつきましては、小谷委員ご指摘のとおり、相続といったところが一番多いと聞いております。また、解除後の土地利用につきましては、宅地開発や資材置き場といった形の利用というケースが多いと聞いております。

○小谷委員

分かりました。ありがとうございます。

○一ノ瀬会長

他にいかがでしょうか。

久保田委員お願いします。

○久保田委員

2ページ目の表2中に市民満足度調査というものがあり、2021年と2024年にやる計画になっていますが、過去にどういったものが計画されていたのでしょうか。また、今年はどういう時期にどのようなものが計画されているのか教えていただきたいです。

○事務局

ありがとうございます。こちらの市民満足度調査につきましては、別の部署である総合

政策課が実施しているものになります。こちらの表に記載させていただいている意味としましては、基本方針3の目標を図る指標として、満足度調査からの結果を設定しております。その結果を、今回のみどりの基本計画の改定作業に反映するため、こちらの表に市民満足度調査の予定を記載させていただいたものになっております。

担当が違うため、実施する時期や詳細な内容につきましては、事務局では分かりかねるところとなります。

○久保田委員

今後、別の機会で知ることができるということでしょうか。

○景観みどり課長

ホームページ等で確認したところ、令和6年度茅ヶ崎市市民意識調査が令和6年7月に行われています。調査は、16歳以上の市民を対象に住民基本台帳から無作為に抽出した3,000人に郵送しております。

○久保田委員

分かりました。ありがとうございます。

○一ノ瀬会長

他にいかがでしょうか。そうしましたら、私からよろしいでしょうか。

先ほどご説明いただいた内容自体は、この基本方針1でいうと10ページに該当する自己評価の総括と今後の方向性なのかなというふうに思います。例えば、この基本方針だけでも12施策がありますが、自己評価に2つの項目があるんですけど、全く出てこない施策もあつたりするのですが、これは、例えば1ページに全部が収まるように事前に文量の設定をしているのでしょうか。詳細については、後ろのページで確認するという考え方で良いのでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。1ページで収めるなど、文量の制限といったところは、定めておりません。会長がおっしゃられたように、詳細な部分につきましては、各施策の部分をご覧いただきたいところです。そういった中で特にトピックスとして挙げ上げるべき内容を、自己評価の総括として記載させていただいている形となっております。

○一ノ瀬会長

分かりました。課題のところでは、水辺の環境について特に言及がないような気がしますが、河川や海岸については特筆すべきことが無いということでしょうか。

○事務局

おっしゃるとおりです。河川や海岸における保全活動に関して、例年同様の活動であったため、特に記載しなかったものです。

○一ノ瀬会長

分かりました。他にいかがでしょうか。

そうしましたら、基本方針2について説明をお願いします。

○事務局

それでは、基本方針2の説明に移りたいと思います。

説明の前に1点修正をお願いいたします。37ページの表中の「生活被害等における特定外来生物の駆除」においてアライグマとクリハラリスの記載があります。令和4年度の数値についてアライグマとクリハラリスの件数がどちらも35件となっておりますが、アライグマが64件、クリハラリスが14件というような形に修正をお願いいたします。

それでは、説明に戻ります。30ページの基本方針2「生きものが生息・生育するみどりの確保」をご覧ください。基本方針2は、生物多様性の保全のため、重要な自然環境の保全と生態系ネットワークの形成、外来種対策など、生きものが生息・生育するみどりの確保に関する取組となります。

各施策の取組と効果の総括として、これまで実施してきた自然環境評価調査の結果、市内で重要な自然環境が残されている地域として選定した清水谷をはじめ赤羽根字十三区周辺や平太夫新田などにおいて、土地所有者や市民団体、地元企業との協働により、生物多

様性に配慮した保全活動を実施した結果、外来種から在来種への植生の変化や明るい林床への変化が確認することができ、日ごろの保全活動の成果が表れてきていると感じております。

保存樹林制度については、相続の発生により1件約900㎡の解除が発生しましたが、引き続き、地権者等のご理解・ご協力のもと25件約3.2haの保存樹林が継続して指定となっています。保存樹林は、みどりの確保・保全に繋がり、まちの景観保全ならびに生態系ネットワークの形成の推進に寄与していると考えます。

また、開発行為予定地等において、指標種を中心とした代償ミティゲーションを実施するなかで、「茅ヶ崎市レッドリスト2017」における準絶滅危惧種であるコマツナギとアカバナの移植を実施しました。

現在、進めている第4回自然環境評価調査につきましては、調査員募集において地域情報誌の活用など情報発信に力を入れた結果、これまでの調査で最も多い111人の応募があったほか、調査員の資質向上に向けた養成講座を2回実施し、スムーズな調査に移行できるよう人材育成に取り組ましました。

続いて、37ページをご覧ください。外来種対策においては、市管理河川で初めてナガエツルノゲイトウが確認されたため、引き続き定着防止に向けた取組が必要です。また、クリハラリスについては、前年度に比べ捕獲件数が2倍以上となっておりますが、県立施設において捕獲の圧を強めたことによるものであり、引き続き保健所と連携した取組が必要であると考えています。

30ページにお戻りください。

課題と今後の方向性につきましては、生物多様性の保全及び生態系ネットワークの形成の推進を図るため、市民団体、地元企業、教育機関などとの連携・協働のもと取組を進めることが必要であると改めて認識を深めたものです。

指標種やレッドリスト種の代償ミティゲーションについては、対象種に応じた生育・生息環境となる公有地の不足が課題となっております。

また、外来種の対策については、清水谷において日本大学生物資源科学部と市民団体の協力のもと、市内の国内外来種であるモリアオガエルの卵の駆除に取り組んでいます。モリアオガエルについてはこの度、日本大学によるDNA解析の結果、西日本を由来とする系統であることが化学的に判明し、人為的に持ち込まれた種である可能性が非常に高くなったため、引き続き駆除に取り組むものです。

また、外来種の拡散防止等のために、小・中学校など教育機関と連携した情報発信等の取組が重要であると考えます。

基本方針2については以上となります。

○一ノ瀬会長

ありがとうございます。それでは、基本方針2の自己評価及び、取組内容等について質問コメントいただければと思います。岡田委員お願いします。

○岡田委員

36ページの絶滅危惧種対策のミティゲーションについて、活動としてリスト化されていますが、それぞれ成功したものもあれば、うまくいかなかったものもあると思います。その後どうなったかということが分かるような示し方はどこかでされているのでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。今のご意見につきましては移植をした後のモニタリングをどのようにしているのかというような形のご意見だったかと思えます。

実際に代償ミティゲーションをやった場合には、活着が確認できるまで市職員によるモニタリングを実施しております。その辺りのことを活動内容として記載した方が良いのではないかというような意見として捉えまして、活動内容にプラスして記載することを検討します。

○岡田委員

ありがとうございます。多分興味を引くところだと思うので、ぜひそういう情報は見え

る形で残す必要があると考えます。

○一ノ瀬会長

他にいかがでしょうか。

荒井委員お願いします。

○荒井委員

ご説明ありがとうございました。

39ページの自然環境評価調査の実施のところですが、表を見ていくと、今回111名の調査員を確保できたということですが、その前の令和元年から4年までは、データが取れていなかったのかなというのが1点目の質問です。もちろんかなり増えたのは良いことで、取組内容を読むと、SNSや地域情報誌の活用で増えたということですので、これをやったら必ず増えたというように具体的な要因を明らかにしておくことが大事であると考えます。今後は、調査員を増やしていく方向にもっていく必要があると思うので、情報を出したから増えたのか、今までやっていなかった情報発信の手法を取り入れたから増えたのかというような部分を具体的に説明していただけますでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。まず1点目の調査員の人数につきましては、前回実施したのが6年ほど前であったため、この表には出てこないという形になります。手元に正確な数字はないですが、70人前後であったと記憶しておりますので、そういった点で前回より大幅な増加をしていると事務局では捉えております。

また、情報発信の手段についてですが、これまでは広報紙やホームページを使って情報を発信し、調査員の募集をしていたところですが、今回から地域情報誌であるタウンニュースを使った募集を2回にわたりかけました。その結果、反響が非常に大きかったことから、行政の媒体とは違った発信方法を活用したことが効果的であったと考えております。

○荒井委員

ありがとうございました。違う媒体を使用することで効果が出るという実績は大きな進歩であると考えます。この手法は、この部署だけではなく、他の部署でも活用できると思います。調査員につきましては、持続的に取り組んでいただく必要があるため、持続的定着率を見るためにどのような取組をすれば良いのかを明確にしておく、これからの施策にとっても役に立つのではないかと思います。引き続きよろしく願いいたします。

○一ノ瀬会長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

萩原委員お願いします。

○萩原委員

報告の中で外来種の対策が結構入っていたと思いますが、自然環境評価調査の際には、外来種の調査は併せて行っているのでしょうか。

○事務局

実際に調査を行った際に外来種を発見した場合には記録として残しております。

○萩原委員

ありがとうございます。クリハラリス等が厄介な分布の広がり方をしています。茅ヶ崎市の中でも限られたエリアには侵入させないといった計画を考えていると思いますが、そういった計画が市民に見えるような感じになっていると、より分かりやすいと思います。

○一ノ瀬会長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

そうしましたら私からよろしいでしょうか。

基本方針2についてですが、実績をそれぞれ表で示していただいておりますが、読み取りづらいと思った箇所があります。

例えば、34ページの保存樹林や保存樹木については、累計の件数や面積を記載している一方で、保存樹林における生物調査では、各年度ごとに実施した回数が記載してありま

す。性質上仕方がないことかとは思いますが、タイトルと数値の関連性をもう少し分かりやすくした方が良いと思います。同じように、表中最後の「小出川大曲橋周辺におけるみどりの確保（河童徳利ひろば）」では、事業量が「整備中」と記載されていますが、22ページの「市民緑地の設置（再掲）」では「検討数0」と記載してあります。このように記載の方法が統一されていないように見受けられます。また、「中央公園周辺におけるみどりの確保」の項目では、令和元年度に40,000㎡（中央公園）との記載があるが、中央公園は中央公園周辺ではないので、記載の仕方を一目見て分かるように統一すると良いかと思います。

事務局からお願いします。

○事務局

ありがとうございます。ご意見いただきましたとおり、累計なのかその年度ごとなのかというところも含め、全体をもう一度確認し、修正が必要な部分については対応してまいります。

○一ノ瀬会長

それでは基本方針3に入りたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは、最後、基本方針3となります。42ページをご覧ください。

基本方針3は、みどりと人びとがであう協働のしくみづくりを推進するため、生物多様性の保全や緑化の推進に関する情報発信や市民や事業者、教育機関との連携などにより、みどりと人々がであう機会の創出などに取組ました。

各施策の取組と効果の総括として、生物多様性の保全に関する周知・啓発を図るため、昨年度に引き続き、生物多様性に関するイベントや庁内職員及び市民を対象に講座を開催しました。なかでも約1,800人が来場した環境フェアでは、市民団体による保全活動や生きものの生息・生育環境などのパネル展示を実施したほか、本市では国内外来種となるモリアオガエルの生体展示を行い、生物多様性の保全や周知啓発に繋がったと考えます。

また、オオブタクサ等の外来種が繁茂しているエリアにおいて、市民団体や事業者との連携・協働のもと、外来種の抜取と植物の高さを残した管理手法を実施したことにより、オギ等を中心とした在来種への植生遷移を確認できたことは、生物多様性のみどりの質の向上に繋がったものと考えます。

また、教育機関との連携においては、特別緑地保全地区等における自然観察会等を社会教育施設や小中学校において、24回実施したことにより、みどりにふれあう機会の充実に繋がったものと考えます。

課題と今後の方向性につきましては、自然環境評価調査における調査未経験者の割合が約54%となっているため、調査スキルの向上など今後の調査継続に向け、知識及び経験値の向上など人材育成に関する環境整備が課題と考えます。

また、自然環境の保全活動に取り組んでいる市民団体において、他の地域と同様に高齢化及び人員不足を課題としている団体が多いため、日ごろの保全活動につながるように、定期的な観察会等に関する情報発信など継続的な活動支援に取り組むことが重要と考えます。

特別緑地保全地区などにおける自然観察会の実施など、小・中学生を対象にみどりにふれあう機会を創出することは、将来のみどりの保全・生物多様性の保全に向けて大切な取組であると考えため、特に小中学校を中心とした教育機関との連携に引き続き取り組めます。

自然環境の保全につきましては、行政だけでなく、市民をはじめ事業者や教育機関など様々な主体による連携が重要と考えるため、継続的な取組が課題であると考えます。

基本方針3について説明は以上となります。

○一ノ瀬会長

ありがとうございます。それでは基本方針3の説明をいただいたわけですが、質問やコメントいただけたらと思います。

岡田委員お願いします。

○岡田委員

植物の高さを残した除草手法とありますが、どういった手法なのかの詳細を教えてくださいたいです。オオブタクサやセイタカアワダチソウを選択的に抜き取るということでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。お話にありましたセイタカアワダチソウやオオブタクサについては、基本的に根からの抜取を行っています。高さを残した除草につきましては、主に在来種の植物に対して「高刈り」という手法を取り入れております。これは草を地際から刈り取るのではなく、小さい生きものの隠れ家となるような高さ（ペットボトル1本分）をわざと残した管理手法となります。この手法を外来植物の抜取作業と組み合わせて実施しております。

○岡田委員

ありがとうございます。2つの手法については、区別して記載した方が良いと思います。専門ではないので詳しくは分かりませんが、一ノ瀬先生はどうお考えでしょうか。

○一ノ瀬会長

私も分かりやすく記載した方がいかと思います。

他にいかがでしょうか。

荒井委員お願いします。

○荒井委員

ご説明ありがとうございます。着実に取組が進んでいるような印象を受けています。例えば、「20 市民との連携」や「21 教育機関との連携」など様々なことをされていて、1つ1つの項目ごとが連動し、さらに企業などの活動に繋がっていくといいなと拝見していました。

教育機関についても一生懸命にやってくさっているのが数値を見て伝わってくるので、小中学校で終わってしまうのではなく、さらに持続していくためにはきちんとデータを取っておいて、どう活かしていくのかを考えると良いかと思います。

皆様とても熱心にやられていると思うので、できれば小さい頃からの教育が大人になってからのプラスのシビックプライドに繋がり、「茅ヶ崎に住んでよかった」や「茅ヶ崎に住み続けよう」と思ってもらえると良いかなと思います。

○一ノ瀬会長

他にいかがでしょうか。

小谷委員お願いします。

○小谷委員

ありがとうございます。例えば52ページについてです。先ほど会長から表の数字の出し方について指摘があったと思いますが、「生物多様性等に関する情報発信」について媒体数と発信回数が提示されています。発信回数よりは、どれくらいの人が見たかという数値の方が指標としては良いと思います。一方的に何回やりましたという指標では、本当に効果があったかという部分が見えないと思います。ハードルの高いことを言っているのは承知していますが、可能な範囲で一体どれだけの人がその情報に触れたのかが分かる数字を提示した方が説得力はあると思います。

○事務局

ありがとうございます。「生物多様性に関する情報発信」の媒体につきましては、当然、読んだ人、見た人のアクションがとれないといったものが含まれております。例えば広報紙や先ほど申し上げた地域情報誌など、反応が見えないものについてもこの中に含まれています。

一方でFacebook等SNSについてもこちらの数値に含まれておりますので、SNSについては、いいねの数等で数字を拾うことができるかなと思います。表中にさらに細分化して示すといったところは別として、詳細部分の把握につきましてはご意見いただいたように必要な部類かと考えます。

○小谷委員

ありがとうございます。もちろん、限界はあると思います。例えば、50ページの「小中学校における自然観察会等の実施」の部分については、実施した学校の数と回数が記載されていますが、参加した生徒の数は拾えなくはないと思います。そういったところから数字を集めていくことにより、市民が見ても説得力のある資料になると思います。

○事務局

ありがとうございます。今お話しいただきました50ページの「小中学校における自然観察会等の実施」の部分につきましては、基本的に参加人数の記録をとっております。表にまとめる際に、手違いにより人数データを取れなかった年度があったため、一律でこのような記載とさせていただきます。また、実際にこの自然観察会を実施した際には、参加した生徒を対象にアンケートを実施しています。その中では、「虫が嫌いだったけどちょっと興味を持てるようになった」といったような肯定的な意見も聞いておりますので、自然観察会については引き続き実施していきたいと考えております。

○小谷委員

ありがとうございます。

○一ノ瀬会長

他にいかがでしょうか。

私からも確認です。53ページの財源の確保では、緑のまちづくり基金や森林環境譲与税について細かく説明をさせていただいているところです。森林環境譲与税については詳細にご説明いただいている一方で、緑のまちづくり基金についても増減があるため、何等かに使用していることが見て取れます。緑のまちづくり基金についてもどのような用途で使用したのかの説明があった方が分かりやすいと思いました。

○事務局

ありがとうございます。仰るとおりでございます。こちらにつきましては、第4回自然環境評価調査の委託料として緑のまちづくり基金を一部使用しております。そのため、53ページの取組内容（実績）の欄に追記いたします。

○一ノ瀬会長

分かりました。

基本方針3について、他にいかがでしょうか。

全体を通して何かありますでしょうか。

それでは、次の報告事項「森林環境譲与税の使用実績等について」、事務局よりお願いします。

○事務局

それでは報告案件2の森林環境譲与税の使用実績等について、事務局よりご説明させていただきます。

森林環境譲与税は、令和元年度より国から譲与税として配分がすでに始まっていますが、皆様ご存じのように、令和6年度より新たな国税として森林環境税の徴収が始まりました。地方自治体に対し、森林整備等の財源として配分され、用途の公表も義務付けられていますが、森林環境税の課税開始に伴い、市民の関心が高くなっていると思われるため、今回改めてこれまでの使用実績等について、ご報告させていただくものです。

報告資料2をご覧ください。森林環境譲与税については、法に基づき、「森林整備」、「人材育成・担い手確保」、「木材利用・普及啓発」と森林の整備・促進に関する施策に充てることとされています。報告資料2には、令和元年度から令和5年度までの本市における森林環境譲与税の譲与額及び執行額、森林環境譲与税の基金として積み立てた残高の金額をまとめたものになります。

譲与税額については、令和元年度の911万円から徐々に増額となり、令和5年度は約2581万円となっております。使い道、執行額につきましては、本市においては、これまで主に森林整備として、特別緑地保全地区の土地購入にかかる費用と、市北部を中心とする緑地の整備に活用してきました。特別緑地保全地区において、都市緑地法に基づく買取が生じた場合、1件1,000万円近い支出が見込まれるため、複数の買取が発生した場合に備えて、ある程度(4~5千万円)まとまった額が基金に残るように運用しています。

令和5年度におきましては、前回の審議会でご報告したように清水谷特別緑地保全地区において、危険木及び隣地支障木の伐採を行う重点保全業務を実施したほか、試験的な取組として、当該重点保全業務で発生した伐採材を再利用し、ベンチを設置しました。これは、ナラ枯れの被害木(クヌギ)に、樹脂を浸み込ませた処理を施した材を活用してベンチを1基作成したものです。金額としては小規模ですが、元々収縮しやすい性質のため屋外で使用する木材としては不適とされてきたクヌギを用いた点、ナラ枯れ材活用の可能性を拡げた点から、庁外からも注目を浴びた事業となりました。

続いて、裏面令和6年度の予定をご覧ください。主な事業としては、引き続き清水谷特別緑地保全地区重点保全に取り組むほか、清水谷における木道の設置工事及び土地の買入1件を予定しています。

清水谷における重点保全業務では、常緑広葉樹が増えて暗くなっている樹林の一部を伐採し、林内の環境改善及び落葉広葉樹主体の森林へと林相転換を試みるものです。木道設置工事は、清水谷の湿地部に設置されている木道が老朽化したため、架替工事を行うものであり、湿地部での施工に配慮して、使用材に樹脂含浸を施し、耐水性・耐久性を向上させた木材を使用する予定であり、一部前年度に清水谷で伐採したヒノキ材等を用いる予定としております。

簡単ではありますが、報告は以上となります。

○一ノ瀬会長

ありがとうございます。

それでは、ただいまの報告についてご意見やご質問等ございますでしょうか。

岡田委員お願いします。

○岡田委員

ありがとうございました。報告資料1の53ページに記載されている森林環境譲与税の令和5年度実績の数字と報告資料2の数字が異なっているのはどうしてか教えていただきたいです。

○事務局

値を確認し、修正させていただきます。

○岡田委員

お願いします。それと、森林環境譲与税の譲与額が人口配分の多い自治体に多く配分されることが問題となっているため、比率が変わるという話を聞いております。茅ヶ崎市に入る森林環境譲与税の額は今までより増えるのか、減るのかを教えてください。

○事務局

森林環境譲与税の配分の見直しについては、令和6年度時点で行われております。譲与額は、自治体の持っている森林の面積比や人口比率、林業従事者の数を指標として配分額が決定されるものとなっております。令和6年度に行った見直しの内容につきましては、森林の面積の比率を人口割合よりも重視するという形で配分額の変更を行ったと記憶しています。茅ヶ崎市の譲与額につきましては、配分額が変更されたものの、令和5年度よりも令和6年度に譲与された金額の方が多く、結果として増額された形となります。

○岡田委員

ありがとうございました。伐採木をベンチや木道の架替に流用して使うというのは良いことだと思います。茅ヶ崎市自体の木材の流通度は今までどのように変化してきているかを伺いたいです。ご存じなら教えてほしいです。

○事務局

先ほどの説明でありましたように茅ヶ崎市では林業を営んでいる方がいないため、実際に茅ヶ崎市内の市場に出回っている木材の量、茅ヶ崎市から搬出されている木材の量については、把握できていないところが現状となります。

○岡田委員

ありがとうございます。

○一ノ瀬会長

例えば、巨木等を伐採した場合、伐採に係る費用については森林環境譲与税を使用することができるかと思いますが、その伐採材を売却して収益を上げるということはできるのでしょうか。

○事務局

実際に伐採後の木材の売却についてですが、茅ヶ崎市の中では、伐採材を売却した場合、市の歳入となるわけですが、その歳入を受け入れるための条例整備ができていないという状況であると考えます。世間的には木材についても財産として取引され、お金の換えられますが、行政の我々の立場の中では、その受入に対する法的な整備が整っていない状況となります。そのため、収入には結び付いていない状況となります。

○一ノ瀬会長

分かりました。

他にいかがでしょうか。

小谷委員お願いします。

○小谷委員

森林環境譲与税を買取請求に備えてある程度のストックをしておくことは、もちろんありだと思います。今まで、森林環境譲与税を支出している中で、何か支出に対する計画のようなものがあれば教えていただきたい。

○事務局

ありがとうございます。今年度から国税として課税されたということもあり、森林環境譲与税の使い方の方針のようなものは現状ないため、策定していく必要があると考えております。これまでは、買取請求に備えてストックしていた面もありましたが、令和5年度からの清水谷重点伐採に関しましては、3年間の計画を立てておりますので、そうした意味では、計画を立てて森林環境譲与税を活用しているというところになります。

○小谷委員

ありがとうございます。市民に対して、戦略的に使用していくということを説明していく必要があると思います。もちろん突然起きた事象に対し、場当たりに使用するというのも考えられますが、計画的に使用していけば市民に対する説明責任を果たせると思うので、ご検討いただければと思います。

○一ノ瀬会長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

久保田委員お願いします。

○久保田委員

質問というか感想も含めてです。質問の一つとしては、報告書に関して一切画像や写真が全くないのが気になりました。例えば、何か一つ写真や図柄があればもっと言葉で説明しなくても分かることもあるのではないかと思います。

感想は、以前清水谷を見学させていただいたことがあり、すごく良い場所であると感じましたが、行きづらい場所であるため、一般市民がもっと行きやすい場所であれば良いと思いました。令和5年度よりすごく環境が改善されているようなので、また行ってみたいと思いました。清水谷の環境について広く告知されて多くの人が行ける場所になれば良いと思いました。

○事務局

ご質問、ご意見ありがとうございます。報告書につきましては、特段写真や図を載せないというものではございません。次回報告書を作成する折にいただきましたご意見を参考にさせていただきます。ビジュアル的に親しみやすいものを作るように検討させていただきます。

清水谷に関しまして、森林環境譲与税を使用して整備を行っているということもありますので、今後の活用方法について検討していく必要があると認識しております。

○一ノ瀬会長

他にいかがでしょうか。

私からもコメントのような形ですが、これだけの額が定期的に森林環境譲与税として入ってきて、みどりの整備に使うことができるのは非常に茅ヶ崎市にとっても大きいことであると思います。その中で、事務局からも説明がありましたが、森林環境税の徴収が今年から始まっている一方で、実質賃金が下がっているというようなことが問題視されています。これにより、地方に回すお金を取られるといった議論も春先にSNSで話題になっていたかなというふうに思います。一方で、茅ヶ崎市のようにいわゆる林業が主となる場所ではない市町村でも、森林環境譲与税が使われているというのは非常に重要なことであると考えます。

今回このような形でご報告いただいておりますが、茅ヶ崎市の市民の方にも知っていただくことは非常に重要なことであると思います。先ほど小谷委員からご指摘あったように、森林環境譲与税を戦略的に使用していくということはもちろんですし、それを市民の方に見える化していくことがとても重要であると思います。

ありがとうございました。

二つの報告を合わせて、他にはございますか。

事務局からはよろしいでしょうか。

○事務局（課長）

その他の報告事項につきまして、事務局からは特にございません。

長時間にわたり、ご意見等をいただきありがとうございます。

次回の審議会につきましては、以前にお示したように、10月上旬、2日から10日くらいの間で、開催したいと考えております。改めて日程調整させていただきますので、よろしく願いいたします。

○一ノ瀬会長

ありがとうございました。

以上をもちまして、令和6年度第1回茅ヶ崎市みどり審議会を終了します。委員の皆様、ありがとうございました。

○事務局（課長）

委員の皆様、お疲れさまでした。それぞれ随時ZOOMから退出していただくよう、お願いいたします。本日はありがとうございました。